

シンポジウム

「木を”生かして生きる”社会を

つくるために」

第1部 「“森里海連環”の心を求めて」

挨拶 笹岡 豊徳(須崎市長)

来賓講話 「“天災は忘れた頃にやってくる”に学ぶために」
尾池 和夫(京都大学総長)

基調講演 「“森里海連環学”を誕生させた心」
田中 克(京都大学名誉教授、フィールド科学教育研究センター・前センター長)

講演Ⅰ 「海から見える“森里海”連環」
白山 義久(京都大学フィールド科学教育研究センター長・教授)

講演Ⅱ 「川の物質循環—栄養塩を中心に—」
深見 公雄(高知大学理事(教育担当)、農学博士)

第2部 「木を“生かして生きる”社会をつくるために」

事例紹介 「わが社が須崎市と取り組むバイオマス発電」
片岡 政之(住友大阪セメント(株)高知工場 環境課長)

文部科学省への提案をふまえたディスカッション
「わが国初の“森と川と海”をフィールドにする仁淀川での
壮大な実験は、どんな社会の形成を教えるか」
柴田 昌三(京都大学フィールド科学教育研究センター次長・教授)
天野 礼子(アウトドアライター)

来賓コメント 相良 祐輔(高知大学学長)

2008年5月7日(水)
13時30分～16時20分

須崎市立市民文化会館大ホール

●共 催：京都大学フィールド科学教育研究センター
高知大学大学院黒潮海洋科学研究科
須崎市 (問い合わせは企画課 TEL.0889-42-5691 FAX.0889-42-7320)

●協 力：住友大阪セメント株式会社
●後 援：環境省、林野庁、高知県、
流域林業活性化センター四万十など

ごあいさつ

2005年、須崎市横浪半島に「横浪林海実験所」が開所されました。これは、取り壊し予定であった「県立横浪こどもの森」セミナーハウスを県から借り受けて、県水産試験場、高知大学大学院黒潮圏海洋科学研究科、そして京都大学フィールド科学教育研究センターの3者が共同で、森から海までの教育と研究に利用する施設として設置されたものです。京都大学フィールド科学教育研究センターは2003年に、高知大学大学院黒潮圏海洋科学研究科は2004年に誕生した統合科学という新たな領域の学問です。いずれも、地球環境と人間社会とのあるべきかわりかたを模索し、学内だけでなく広く社会連携し、市民参加型研究という一面も併せ持ち、ともに人と自然が調和した社会を目指す学問であると聞いております。

今回のシンポジウムのメインテーマは「木を“生かして生きる”社会をつくるために」です。資源小国日本にあって、木は唯一とも言える貴重な資源です。この木を持続可能な循環資源とするためにも、森林の再生が緊急の課題となっています。第1部では、京都大学と高知大学より、学問・研究のあらましと、これからの展開のお話がかえると思います。第2部では、仁淀川一本をフィールドにと考えておられる京都大学の柴田先生から、今年文部科学省へ提出されるという壮大な実験の提案をお話いただきます。

本市は、2005年4月に、内閣官房都市再生本部から「地球温暖化対策・ヒートアイランド対策モデル地域」に選定されました。さらに、同年8月には、本市の「『太陽と森』クリーンエネルギー創生計画」が、環境省と経済産業省から「再生可能エネルギー高度導入CO₂削減モデル地域計画」のモデル地域計画として認定を受け、取り組みを進めてきました。この計画の大きな柱の一つとして、住友大阪セメントが取り組む木質バイオマス発電があります。その住友大阪セメントの片岡課長様からバイオマス発電への取り組みについて、お話をいただきます。

森を健全にすることは、豊かな川や海の再生の出発点になると考えられています。多数の皆様の御参加をこころより願っております。

須崎市長
笹岡 豊徳

タイムスケジュール

2008年 5月7日(水) 13時30分～16時20分

13:30 開会挨拶 笹岡 豊徳(須崎市長)

第1部 「“森里海連環”の心を求めて」

13:35 来賓講話 「“天災は忘れた頃にやってくる”に学ぶために」
尾池 和夫(京都大学総長)

13:50 基調講演 「“森里海連環学”を誕生させた心」
田中 克(京都大学名誉教授、フィールド科学教育研究センター・前センター長)

14:10 講演Ⅰ 「海から見える“森里海”連環」
白山 義久(京都大学フィールド科学教育研究センター長・教授)

14:30 講演Ⅱ 「川の物質循環—栄養塩を中心に—」
深見 公雄(高知大学理事(教育担当)、農学博士)

(休憩10分)

第2部 「木を“生かして生きる”社会をつくるために」

15:00 事例紹介 「わが社が須崎市と取り組むバイオマス発電」
片岡 政之(住友大阪セメント(株)高知工場 環境課長)

15:20 文部科学省への提案をふまえたディスカッション
「わが国初の“森と川と海”をフィールドにする仁淀川での
壮大な実験は、どんな社会の形成を教えるか」
柴田 昌三(京都大学フィールド科学教育研究センター次長・教授)
天野 礼子(アウトライター)

16:10 来賓コメント 相良 祐輔(高知大学学長)

16:20 閉会

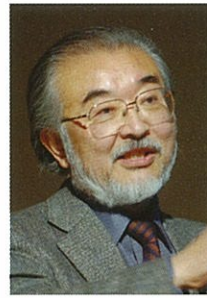


シンポジウム

「木を“生かして生きる”社会をつくるために」



講師等略歴



尾池 和夫 おいけ かずお

●京都大学総長

1940年、東京都生まれ。63年、京都大学理学部地球物理学科卒業。03年12月、京都大学総長に就任。専門は固体地球物理学、地震学。地震学会委員長、地震予知連絡会委員、京都市防災会議専門委員などを歴任。趣味は俳句で、水室俳句会の同人。



田中 克 たなか まさる

●京都大学名誉教授

1943年、滋賀県生まれ。琵琶湖での釣りが原体験となって、京都大学や西海区水産研究所にてヒラメやスズキの稚魚研究を展開。03年京都大学フィールド科学教育研究センター発足とともに長に就任。稚魚達と自分の孫の世代の幸せを願って、「森里海連環学」を提唱。著書「魚類学 下」「森里海連環学への道」他。



白山 義久 しらやま よしひさ

●京都大学フィールド科学教育研究センター長・教授

1955年、東京生まれ。07年より現職。専門は海洋生物学。特にメイオベントス(小型底生生物)の生態学・分類学・保全生物学。近年は特に沿岸の生物多様性を地球規模で解析するNaGISA計画、海洋酸性化が海洋生態系に与える影響、沿岸生態系の統合的管理に関する研究と研究成果の社会への還元に努めている。



深見 公雄 ふかみ きみお

●高知大学理事(教育担当)、農学博士

1954年、京都生まれ。溪流釣りが好きでサケ科魚類の研究がしたくて水産学科に入学したもの、微生物のおもしろさにひかれ、学部途中で方向転換した。今は、サンゴ礁や河川での微生物の役割やそれを利用した環境保全、悪化した環境の修復と改善などをテーマに研究を行っている。



柴田 昌三 しばた しょうぞう

●京都大学フィールド科学教育研究センター次長・教授

1959年、京都市生まれ。07年より現職。専門は里山資源保全学、竹類生態学、緑化学。世界竹組織常任理事、日本造園学会理事、日本緑化学会理事、森林学会評議員等。荒廃が進む里山を対象に、多様性回復のための再利用に関する研究、拡大竹林の管理に関する研究等を行っている。



天野 礼子 あまの れいこ

●アウトライター

1953年、京都市生まれ。中学、高校、大学を同志社に学ぶ。88年、文学の師・岡高健とともに「川の国」のダムに警鐘を鳴らす国民運動を立ち上げ、育てた。近著は「林業再生」最後の挑戦。04年から高知県で、森里海の連なりを取り戻す社会実験を展開中。有機農業への助力も開始した。